

Conference Report 学会だより

Satellite 2001 に出席して

編集委員 風神 裕

Satellite2001 は例年同様 Washington Convention Center にて、3月28日から30日午前まで開催、28のセッションと展示が行われた。展示には219社が参画、セッションと展示を併せて延べ7000人の参加であった。SES Astra による GE Americom 買収が発表され、オープニングセッション「Global Industry Leaders Speak」にても取り上げられた。両社併せて\$1.3B/年のビジネス規模になり、グローバルネットワークを作り上げる事



が出来ると予測される。衛星通信事業者の統合がここ1から2年の流れになると予測される。

セッション「SatSats : Crunching the Industry Numbers」では、例年通り、アナリストによる、衛星通信の動向分析の報告があった。米国 DBS 受信者は現在18百万人であるが、2010年までに倍増し36百万人に伸びるとの見通し。DBS 受信機は

1998年\$300であったが、2000年では半額\$150まで下がっている。一方、平均受信料は\$43から\$52まで増えている。これはプレミアムサービスを付加するためであり、CATVの32%に比べDBSは62%と高い。一方、通信は厳しい環境下にある。Point to Pointの通信では光海底ケーブルの敷設が指数関数的に増加している。且つ、国民所得の高い国は光ケーブルを利用し、所得の低い国が衛星を利用している。衛星利用率の最も高いのはアフリカの国々であり、日本は0%に近い。

セッション「Pacific Rim Update : Tracking the Tigers in Asia」ではアジアの現状が議論された。アジアの衛星利用はインターネットに期待することが大きい、一方、アジアの国々の平均所得を見ると、欧米の様に月\$50も負担出来るような状態でない。このような環境下でどのようにして衛星通信を普及させるのかという会場からの問いかけに明確な答えは無かった。

今年の Satellite Executive of the year には Eutelsat の Director General である Mr. Giuliano Berretta が選ばれた。